The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	<図書紹介>中ノ堂一信著『色とかたちが奏でる美　富本憲吉のやきもの』
Author(s)	佐藤, 敬二
Citation	デザイン理論. 2003, 43, p. 88-89
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53086
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

中ノ堂一信著
『色とかたちが奏でる美　富本憲吉のやきもの』
株式会社小学館　2003年　127ページ

佐藤敬二／京都市産業技術研究所

この本は小学館が出版している，アートセレクションシリーズの一環として京都造形芸術大学教授で，意匠学会会員の中ノ堂一信氏が著されたものである。このシリーズは一般人である読者に，古代中国や朝鮮半島の美術など世界各地の美術遺産から広重，若冲，近代では板谷波山，棟方志功に至る芸術世界を判りやすく紹介するものである。

その中で，この書は陶磁器作家としては板谷波山についで二冊目であるが，同シリーズの他の本に比べ一般の陶磁器愛好家のみならず，専門家が読んでも納得する楽しい内容である。それは一貫して工芸の研究をして来られた筆者の見識に拠るものであろう。

はじめに，で著者が述べられている通り，西洋の工芸・デザイン知識を身に付けていた富本憲吉（1886－1963）は，陶芸の世界に初めて創作陶芸を展開し，個性を尊重する陶芸を確立し，その美を開花させた。彼の作陶の根底に貫かれた先見性に満ちた工芸観と厳格な製作態度は他の陶芸家には見られない。その工芸の認識を形成したのはウィリアムモリスに代表される西欧近代工芸とヴィクトリア・アンド・アルバート美術館での作品研究であった。

また彼の作陶の基底を支えたものが東京美術学校図案科の建築装飾図案教室での講義と，建築理論であった。伊東忠太以降，塚本靖，大沢三之助と継承された理論で，美しい建築はその建築物の造形の持つ直線や曲線の組み合わせの配列，割合，線の構成などの構造と，色彩の配合，対比などの建築装飾の均衡と調和に由来するという美術的側面を重視する建築理論である。それはその後日本の建築学の主流となる構造力学・技術的観点を重視する建築工学に対して大きな影響を持っていたという。

その後，富本は木版画・織物・染色品・木彫・家具・革細工・楽焼などの工芸を手がけたのち，陶芸へ移行して行くが，陶芸の根本をなす造形理論として展開したのが，建築装飾理論の応用であった。「壷の形なしに模様を考へる事が出来ず，建築における壁間の装飾は側面や空界線なしには考へられない。形は身体骨組であり，模様はその衣服である。形と模様は相互に連関して初めて一つの生命を造る」（「李朝の水滴」1922）という有名な言葉が紹介されている。この考えは陶磁器における器形と釉薬と文様の一体的把握，作品への表現と言う富本の制作の基本であった。

二十世紀の陶芸に大きな足跡と影響を残した富本の陶芸家としての半世紀に及ぶ活動は，大和時代，東京時代，京都時代の三期に区分される。バーナードリーチと親交を結び，リーチと始めた楽焼，土焼・白磁・染付・鉄絵・赤絵などを製作した大和の安堵村での作陶。東京の祖師谷での独自のフォルムの完成。九谷での色絵磁器の技法研究。戦後京都での色絵金銀彩の活動まで，歴史的にまた技法的に，器の用途別に，また模様の種類別に豊富な図版で紹介されている。それは素人として陶芸の世界に入り，やがて人間国宝に至る偉大な陶芸家の足跡である。

著者は「富本憲吉の陶芸の画期的な側面として，総合的造形としての制作観を提示して，一歩一歩その完成に向かって前進していった

ことにあると考えている。それは，今日の陶芸家にとってはきわめて当然のことであるかもしれない。しかし富本憲吉以前の日本の陶芸家の誰もが，いまだなしえなかったことだ。」と結んでいる。陶芸に携わるものにとってこの一言は，模様を表現する釉薬の研究と形態を形作る生地材料，また焼成技術の研究不足，工芸全般に置き換えれば，装飾とフォルムのバランス能力に乏しい現代の工芸作家や，目利き不在の伝統産業界への警鐘とも受け取れる。工芸関係者として心して考えたい。

この書の構成は以下の様に陶工・富本憲吉，富本憲吉・作陶譜，模様集・写生帖・署名集の三部に分かれている。

■陶工・富本憲吉
白磁
草花・風景の描写と模様
飾り皿
蓋物・角皿・鉢
九谷での色絵研究
飾り壷
陶筥・飾筥
更紗模様との出会い
四弁花模様・羊歯模様・菱模様

■富本憲吉・作陶譜
工芸志向時代
大和時代
東京時代
京都時代

■模様集・写生帖・署名集
富本憲吉・年譜
富本憲吉記念館
富本憲吉の作品が所蔵されている主な美術館

陶芸鑑賞のガイドブックとしてまた，物作りの基本を考える良い機会になると思われるので是非の一読をお勧めしたい。特に最終ページの，「富本憲吉の作品が所蔵されている主な美術館」は，富本の作品にじかに触れたい愛好家にとって便利なガイドとなっている。著者の幅広い見識に脱帽するとともに，今後このシリーズが充実されるのを期待したい。